

会 議 等 記 録 簿

会 議 名	第3回 瑞穂町長期総合計画審議会
日 時	令和2年1月29日(水) AM <input type="checkbox"/> PM <input checked="" type="checkbox"/> 6:30~9:00
場 所	庁舎2階会議室2-1
配布資料	<p>【事前配布】 資 料 1 : 瑞穂町長期総合計画基本構想の構成について 資 料 2 : 瑞穂町の将来の考え方について</p> <p>【当日配布】 参考資料1 : 時代潮流 参考資料2 : 第5次瑞穂町長期総合計画策定住民意識調査報告書 (たたき台) 参考資料3 : 第5次瑞穂町長期総合計画策定住民意識調査報告書 (施策評価) (たたき台) 参考資料4 : 「瑞穂町の未来を話そう!」懇談会 意見整理</p>
議事要旨	
1	開会
2	会長挨拶
3	議題
	(1) 基本構想の構成について
	○基本構想の構成について事務局より説明
	(2) 瑞穂町の将来の考え方について
	○「瑞穂町の将来の考え方」について事務局より説明
	○意見発表
	委員： 事務局からの説明を聞き、素敵な結果だと感じた。モノレール開通への準備はチャンスである。それをきっかけに、空間の質の向上、まちの付加価値創出、商業・工業の発展、交通の便の解決ができるのではないかと感じた。 また、伝えているのになかなか伝わらないということは日々感じており、情報がきちんとまわり「つながる・つなげる」に落とし込めるとよいと感じた。 20年後に瑞穂町の人口は7000人減少するといわれている。個人的には、出生率を上げるようなインパクトのある支えができればと考えている。それにより町が目され、住みたいという人が増えれば、食育、町の産業・商業の発展にもつながるのではないか。そのようなところを大切にしていきたい。
	委員： 定住人口を増やすための具体的な施策について議論すべきではないか。若い人を引き付けるためのアドバルーンとして、何を掲げるかが課題である。子育て支援の充実、特に病児保育等については検討すべきである。

交通機関の整備については言うまでもなく、都心へのアクセスは大事である。もう一つは雇用の創出について。これは若い人を呼び込むためにも必要なことである。それとの両輪で、元気な高齢者について。どのように健康づくりを推進していくのか。高齢化率は高くなり、医療費・介護保険料も上がっていくことになる。施策の充実により、健康づくりを推進していくことが重要である。

委員：

10年後には人口が減少し、若い人も流出する。若い人が瑞穂に魅力を感じない理由は何か。不便さは大きな理由である。例えば、瑞穂町の図書館は17時に閉まってしまい、夜間の利用ができず、必要な場合は隣の羽村市に行かなくてはならない。羽村は21時まで開館しており、19時以降に若い方々が訪れている姿を目にする。若い人は週末忙しく、週に1回でも図書館が遅くまで開いているとありがたい。

各地域のコミュニティセンターは、子ども・若い人が利用できていない。空間はあってもロープにより子どもの利用できる場が限られている一方、シルバーの方々が広いスペースで活動しているのを目にする。これでは若いお母さん、子どもたちが、今後住み続けたいと思うのか疑問に感じた。広い空間に机を設置し、学校帰りの子どもが宿題などできるとよいのではないか。これも羽村の話になるが、学生たちが勉強している姿をよく目にする。瑞穂でもコミュニティセンターをそのように利用できれば、子どもの居場所があり、安心感も高まるのではないか。

委員：

瑞穂町に住む全世代が、豊かに暮らせるまちをつくることが目標だと考える。生活圏の成り立つまちづくり。近くで買い物ができ、病院があり、移動手段もある。そのためには現在の人口では足りず、交通網、商業圏も成り立たないのではないか。人口を増やすための施策が必要と考えている。具体的には企業の誘致、若い人を呼ぶための大学誘致などが考えられる。モノレールはその起爆剤となるものである。モノレールが来るようなまちづくりに加え、そこにつながる交通網も必要になる。

また、地域オーダーメイド、協働の考え方も重要と考えるが、これまでその実態があまり見えていない。真剣に考え、まちづくりを進めなければならない。

委員：

最も心配なのは、今後全世帯の半数が一人暮らしになること。空地などを活用し、企業を誘致することが大切である。

瑞穂は安全・安心で、住みやすい環境のよいまちである。そのことを利用し、自然災害に強いまちづくりを進められるとよい。

いろいろな交流があることも重要である。町の小中学校に出向き10年後の瑞穂の姿についての意見を聞くなど、交流の場を持ちたい。今の小中学生など、若い世代の意見は大事である。

最終的には企業誘致を進め、税収を上げていく必要がある。

委員：

人口を増やすことは非常に大事である。若い世代を流出させないためには、交通施策が重要となる。新たな公共交通の検討会が立ち上がったが、自動車を所有しない方、運転しなくなった方についての交通施策も必要である。

モノレールは箱根ヶ崎まで来ることになるが、町内から箱根ヶ崎まではどうやって行くのか。循環バスなど、福祉バスだけでなく全員が乗れるバスの希望も耳にする。

もう一点、住民同士のつながり、町外とのつながりも非常に大事である。つながる・つなげるということ。ボランティアセンターで地域住民と接するなかで、どの世代も交流を望んでいるということもあり、大事にしていきたい。いろいろな形の交流があるとよい。

引きこもり、8050問題、地域・社会との接点の確保も重要である。

委員：

少子化ということで共稼ぎ世帯が多くなっているが、働きながら子どもを預けられるところがないと感じている。瑞穂と他自治体との共同の病院はあるが、そのような病院を町としても作っていただけるとありがたい。

学童では多くの児童を受け入れてもらっているが、できれば学校で遊んで帰りたい児童も

多い。例えば五小は学童までが遠いということがある。三小は近くに、一小は学校内に学童があるので安心である。学校は地区ごとに決められているので、学校内に学童があるとよい。

朝は子どもより早く家を出て、帰ってくるのが遅い親もいる。野菜など地元の農作物を活用し、子ども食堂が瑞穂町でもできるとよいのではないか。児童館などを利用できれば地域とのつながりが生まれ、町の特産物、生産者との交流にもなるのではないか。

委員：

学童に入れていないが母親の帰りが遅い場合など、誰でも安心して過ごせる場所（子どもの放課後の遊び場）が各地域にあるとよい。福生市、羽村市のように、利用者を限定するものでなく、誰もが毎日安心して利用できる場所がよい。

子ども会の加入率は減少してきており、どうすればよいか悩んでいる。町内会、子ども会は、全員加入を原則にするのがよいのではと考えている。各々ができることを分担できるとよい。条例等で原則として決め、年1回はできることを行うなどをルール化できないか。誰かの役に立ちたいという思いが強いのはどの年代か。子育て世代ではかなり割合が低いと感じており、多いのは年配の方か。

人材をいかに探すかが課題だと感じている。探し、登録し、活用するという流れができるとよい。インターネットを活用し、瑞穂町ならではの助け合いができる仕組みができるとよいのではないか。ポイント制の導入など、お金以外のもので助け合いができるような仕組みを検討いただきたい。

先ほどあった武蔵野コミュニティセンターの話だが、ロープによる子どもの利用場所の制限は、一部の子どもたちが場所を占拠してしまったために、苦肉の策として対応した結果である。子どもの遊び場として一室開放などができるとよい。

委員：

定住促進のためには、まちの魅力を高めることが必要である。ソフト・ハードの両面が考えられるが、ハード面では都市基盤の整備、公共交通の充実、働く場となる新たな企業誘致等が必要ではないか。現在の行政区域のうち、土地をまったく活用できない市街化調整区域は過半を占めており、現状の土地利用でできることには限度がある。今のままではモノレールが来たところで活用しきれない。これからの時代を見据えると、土地利用の活用は絶対条件である。年々農家の数は減少しており、この15年程度で相当数が減少し、遊休地が拡大している。牛糞がまかれることによる臭いが問題になっているところもある。そのような土地を、町として今後どうにかしなければならないが、現在の長期総合計画では触れられていない。瑞穂町の未来を考えるのであれば、市街化区域に編入していかなければならない。モノレール、圏央道、16号、産業、物流センター等を設けるとしても、現状の土地利用ではどうにもならない。町制100年の年は市政で迎えたい。他力本願ではなく、町が積極的に取り組むべきである。雇用の創出にもつながるように、産業振興の大きなビジョンを作成し、がんばっていただきたい。

委員：

審議会にはもっと若い方の参加があるとよい。若い方の意見を聞くことが大事である。瑞穂町は、南は横田基地、北は東京都、西は農業振興地域と、町として自由に何かをできない情けない環境に置かれている。こんなところは他にはない。

1600社の人々が一生懸命にがんばっていることが、町の一番の誇りである。計画を策定したとしても、資金がなくては何もできない。税収を上げるためには、瑞穂町で事業に取り組んでいる人々に利益を上げてもらわなければならない。環境的にはマイナス要素が大きいと感じている。

町の行政はサービス業の一環であり、瑞穂町の住民が少しでも幸せになれるのが最もよい行政である。

若い人を増やすにはどうするか、是非結婚していただきたい。そのためにはどうすればよいか。町でお見合いを企画するなど、男女で交流ができる場を計画的に作らないことには人口の増加はありえない。外部から来てもらおうという考え方ではだめだと感じている。

委員：

人口を増やすためには結婚が最も効果的である。瑞穂で結婚ができない理由としては、収

入がない、基盤がない等が考えられ、まずは結婚できる環境があることが大事である。仕事があり、設備があれば結婚も可能になる。そこがスタートにあり、子どもが生まれなければ消費も増えていかない。今の日本の法律では子どもは生まれないと感じている。行政がHPでいろいろなお知らせをしたところで、高齢者には見ていただけない。多少の迷惑はかける、けれども自分の力で地域貢献も、といったように、少しずつでも高齢者が役に立てるよう取り組んでいる。

若い人が10年後に帰ってくるまちになるためには、これまで皆さんから出された意見のすべてが整っている必要がある。生産人口が増え、納税者が増えない限り、瑞穂の将来は厳しいのではないかと。

委員：

10年先にこのままでよいかというと、それはない。以前は、会社ごと町内会に加入していた時代もあるが、30年前の町内会のありようと今ではあまりにも状況が違いすぎる。古い体質でよかったのかということはあるが、人とのつながりがなくなっている。子ども会もなくなり、子どもの安全安心も不安である。こういったことの連続が、今の社会につながっている。地域を安心して暮らせる環境にもっていくための組織として、今のままの町内会でよいのか、考えていただきたい。

もう一つ、町の産業は、今後5~10年で本気で増やしていきたい。地域外から企業を誘致することは長期計画でもうたわれているが、どこに誘致できるのか。具体的な答えは何もない。これが今後も繰り返されることは避けた。自分の会社のことになるが、現在町内から来ている社員は1人もおらず、外国人を受け入れざるを得ない状況にある。外国人とも別の形できちんとしたコミュニティが形成されるとよい。

瑞穂町の道路は入り乱れていてとても狭い。幹線道路の迂回の車が停止もせずに通過していく。将来を見据え、通過交通への対策も必要ではないかと。

委員：

瑞穂町は成熟型の都市であるという説明があったが、今現在のことを言っているのか。成熟型にはなっておらず、程遠いというのが実感である。最も期待したいのは、町にまとまって人が集まれる場所があること。例えばスポーツができ、図書館があり、軽食ができるような場所があるとよい。そのためには土地も必要。羽村市の温水プールでは、瑞穂の人ばかりが泳いでいるといったことも耳にする。まとまった場所をつくり、他自治体からも人に来てもらいたい。図書館も、現在のように町の隅にあっては利用しづらく、立派ではあるが利用価値が少ない。大改革が必要ではないかと感じている。

青梅街道の商店街は、シャッターが降りているところをどうにかできないものか。

農業については、もう少し儲かる農業をやることに役場の力を貸していただきたい。儲かる農業であれば喜んで後を継ぐ人も出てくるのではないかと。またB級品は廃棄しなければならないのが現状だが、それも売れるような場所があるとよい。よいファーマーズを作っていたいただきたい。

委員：

SDGs、サステイナブルなど、経済にしろ社会にしろ、持続可能なものを目指すのが今後の大きな基本となる。そういった方向を瑞穂町も取り入れるべきである。

基盤整備が足りないのは道路・交通網というのは認識違いも甚だしい。

医療サービスについて、本日の資料のどこにも取り上げられていないのも問題である。今後、元狭山地区の開業医はゼロになる。そのインフラ整備をするのが最も重要である。

農業については専業農家の割合、経営耕地面積のデータが示されているが、それだけではなく、重要なのはそこで食べていける人がどれほどいるのかということ。農業センサスを見ると、前回調査より3割程度の農家が減少している。

「都市」という表現にも違和感がある。瑞穂は都市ではなくまちであり、都市というほど成熟していない。

モノレールが来ても大した効果はない。それより、東飯能から拝島まで西武線がつながることが最も効果がある。箱根ヶ崎駅に賑わいを生み出すためには、JR車両基地を西武鉄道に買ってもらい、西武鉄道が八高線を仕切るくらいになるのがよいと考えている。

米軍基地について、沖縄では嘉手納基地を利用したまちづくりに取り組んでいる。拡大型の直売所等を作り、横田基地が見え、お茶も飲めるなどのことを考えられないか。三沢に

は米軍の博物館がある。瑞穂も横田基地を活用し、人が来る施設を国に作ってもらうなど、基地を活用するまちづくりの考え方も重要である。

副会長：

日本で最初の図書館を作ったのは福沢諭吉であり、その国の教養の源という考え方がある。町内には7つの小中学校があり、学力向上に向けがんばっているが、大人の我々がもっと教養を身につけることも大事である。健康寿命、高齢者の学び直し、そのような会が立ち上がっているところもある。図書館を学び直しの場、自然発生的な場として活用できるとよいのではと考えている。

会長：

瑞穂町にはものすごくよい資源が豊富にある。ただそれがつながっていないのが一番の欠点である。交流人口というが、町内でもまったくつながっていない。つなげることに取り組めば、町も活性化するのではないか。住民の懇談会では瑞穂に多様な人材がいるという話もあったが、まったく知られておらず、つながっていない。つなげる・つながるということは非常に重要だと考えている。モノレールの話など、交通網ではつながりが出てきており、見通しも明るくなってきたのではと感じている。

○意見交換

委員：

将来子どもたちが住んでいたいと思うように、宿題をできる、大人とも会話ができる、友だち同士でも会話ができるといった場を、コミュニティセンターに作っていくことを企画課で考えていただけないか。高齢者をボランティアで活用することもできるのではないか。今の若いお父さん、お母さんを流出させないためにも重要なことなのではないか。

委員：

町の人口減少をいかにして食い止め、その後、いかにして人口増を実現させるか。そのためには何が必要かということをおっしゃっている。瑞穂の魅力ある都市像をというのが皆さんの思いである。そのような夢を是非長期計画に入れていただきたい。

委員：

土地が使えないなどのマイナスな話が多かった印象だが、今後の町としてこうあるべき、そのためにこうしなくてはならない、ということをお考え計画を作っていただきたい。後ろ向きの考えでは何も前に進んでいかない。

後期基本計画の評価について、相手方あってのことが進んでいないとのことだが、相手方がいるからこそ、是非町としてがんばっていただきたい。それができないことには町はよくならない。

もう一点、人口を増やすことは基本だと思うが、この町にはコーディネーターがいない。農業にしても、皆が個々でやっている印象である。商業についても、商店街をどう作るか、皆で協力して何かをやっというこにならなければ、個々で取り組んでもうまくいかないのではないか。工業もあり、交流、技術アピールをすることで大企業を誘致できないと、今後はうまくいかない。大企業が入ってくれば様々な面でプラスになると考えている。

委員：

農業、商業の関係では、30代・40代の農家さんはかなりいる。農地はないが農業をやりたいという人も瑞穂に来ているが、町内では売れないために外に出しているという現実がある。新規就農は、瑞穂町から始まって10年、八王子就農アカデミーの動きが生まれてきている。その方の野菜使い、商業の方がという取組も始まっている。

コーディネートとまではいかないが、情報の循環には取り組んでおり、そのあたりをより強化できればよいのではないかと考えている。

委員：

社会は多様な人がいて成り立っている。そのことを基本に置かないことに瑞穂町の活性化はありえない。資本主義、競争社会の中、若い人がどれだけ精神的に強くがんばっていけ

るのか、そのことも頭に置いておかなければ、いくら設備等を整えてもしようがない。

委員：

コーディネーター役が皆無というわけではないが、あまり目立ってはいない。つなぎ役を大きな流れとしてやるのにはなかなか苦労がある。農業を活かしながらのまちづくりを進めるためには、農地として適さないところ、農地より価値のある所は転用し、農家の収入に結び付けていくという意識も重要である。

委員：

ふるさと納税の制度があるが、瑞穂町のものだけではなく、場所の提供や体験型のふるさと納税の方法もあるのではないかと。多様な方法をうまく取り入れていけるとよいのではないかと。

会長：

第4次計画の基本理念では自立と協働をうたっているが、お茶とお茶菓子とのコラボレーションはなぜ生まれてこないのか。コミュニティ、世代間交流が活発になれば、自然発生的にいろいろなものが出てくるような資源を瑞穂は持っている。資源が活用されず、眠っている印象がある。

(3) その他

○その他意見

委員：

会の進行について、できる限り時間は守っていただき、運営に配慮いただきたい。

以上